

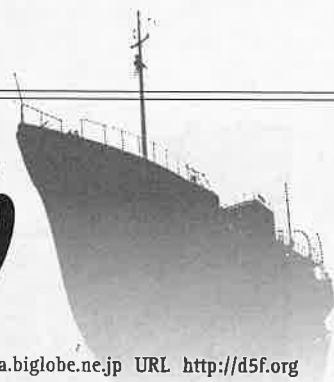
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2004.03.01  
No.306

# 福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



二月十四日、快晴温暖な季候にめぐまれ沢山の来館者があった。記念式典で挨拶するマーシャル諸島共和国大使



ビキニ水爆被災50周年記念事業

## 展示リニューアル、 特別展オープン、 図録発行

ビキニ水爆実験被災から五  
○年の記念事業がいよいよ始  
まりました。

られました。

記念式典のオープニング

三月一日を目前にした二  
月一四日、常設展示のリニ  
ューアルと特別展のオープ  
ニングの見学会が午後二時

は、中国の胡弓奏者趙華さん  
による、中国歌謡の「ツバメ」  
とパブロ・カザルスの「鳥の  
歌」の演奏で幕をあげました。

よりおこなわれ、一〇〇名  
の来賓、協会関係者が参加  
し記念式典おこなわれました。

\* 主催者を代表して川崎昭一  
郎第五福竜丸平和協会会長が  
挨拶。「夢の島公園の諸施設  
と連携しながら、来館者に質  
の高い内容を提供できる環境  
をめざして努力したい」と述  
べました。

式典につづいて参加者は、  
新しくなった展示と現物資料  
の特別展示を見学、さらに茶  
話会がもたれて、にぎやかな  
懇談がつつぎました。

\* 来賓として東京都東部公園  
緑地事務所の松田信毅さんよ  
り挨拶がありました。  
「東京都は各方面からの要

見学会参加者には、記念出  
版の図録と黒田征太郎さんの  
描いた50周年のポスターが配

（2めんにつづく）

50周年記念事業にたいして各方面からご寄付が寄せられて  
います。御礼申しあげます。

財団法人第五福竜丸平和協会

(1めんからつづく)

請をうけ、第五福竜丸の保存のための展示館を建設し、平和協会に展示案内業務を委託してきました。木造の遠洋漁船の実物を展示するとともに、ひきつづき原水爆の惨禍が再びおきないように平和思想の涵養をはかっていきたい」と述べました。

会には、マーシャル諸島共和国の駐日大使、アマットライン・カプアさんもお見えになり挨拶しました。

「水爆実験から五〇年マーシャルの被害者と日本の漁船に乗っていた漁師さんたちと



胡弓の演奏

私達マーシャルの住民も犠牲になった、と述べ、ともに犠牲者であり仲間であります。

その気持ちを、皆さんと共有したいと想います。第五福竜丸の方々が会った水爆ブラボーによる悲劇をふたたび繰り返させないことを訴えたいと思います。こうしたことがふたたび人間におこらないようみなさんが努力されていることに敬意を表します。一緒に協力していきたいと思えます」と述べました。



つづいて夢の島熱帯植物館の飯沼武近館長が挨拶しました。

「植物館のオープンは一九

八八年ですから第五福竜丸は夢の島の施設としては大先輩です。展示館に年間五〇〇校の小中高校の見学があることは素晴らしいことです。植物館は千種類の熱帯植物をご覧いただけるようにしておりマーシャル諸島の植物もご紹介します。今はランがきれいな時期です。ぜひ植物館にお寄りください」と述べました。



特別展と巡回展を後援されている新聞社を代表して毎日新聞社の高尾義彦紙面審査委員長は、「私が記者として取材に参りましたのは被災から三〇年目ごろでした。五〇年たち記憶の外に流れていくか

とも思いますが、紙面でもこうした核の問題、毎日新聞はイラクの劣化ウラン問題なども取り上げるようにしておりますが、第五福竜丸事件についてもできるだけとりあげていきたいと思えます」と述べました。

\*

元読売新聞記者で最初の報道で「死の灰」と名づけた村尾一さんが参加しました。村尾さんは、「三月一五日、月曜日の夜たまたま遊軍記者で泊まりだった。夜八時ごろに静岡から五行ほどの記事で第五福竜丸がピクニック環礁で原爆を浴びたらしい。ピク



ニックとはなんだろう、静岡の安部記者がピキニとエニウエトクを併せてピクニック環礁といった。

そのときデスクは辻本さんで、これはえらいことだ、さらに二人が東大に行ったらしいというので行きました。最初放射線科にいったら長崎原爆の被爆者がいた。いろいろ医局の人に聞いていたら、清水外科に色の黒い人が来たというんです。

夜になってたんですが、各部屋をのぞいて焼津から来た人はいませんかといって声をかけて歩いた。そうしたら三階の五号室の小さな部屋に男が寝ていた。髪が多くバサツとして顔は真っ黒、耳のところがただれて白い膏薬を塗っている。青いズボンをはいて黒いシャツを着て、ぐったりしていた。増田三次郎さんでした。ピキニで原爆にあったらしい、西の空が明るくなって、灰が降ってきた、と云ってました。

都築正雄博士に電話をしたら、核分裂生成物によるもの

(3めんにつづく)



(2めんからつづく)

だろうな、というんです。それをアメリカでは「デス・サンド」死の砂」といっていたんですが、そこから連想して記事には『死の灰』と書いた。そうしたら翌朝の新聞には『死の灰つけ遊びまわる』という見出しになってしまった。

いまなら新聞の第一面のトップになるのですが、そのとき社会面のトップだった。当時は放射線や原子力にたいして、認識のなかった時代でしたから社内でもいろいろ言われました。

しかしわれわれは、水爆か

もしれないと思った。それは、

その年の一月に三〇回の連載で『ついに太陽をとらえた』という原子力の特集をやっている知識があつたのです。とにかく『死の灰』と名づけたことで乗組員には迷惑をかけた、就職や結婚にも障害にもなつたと思います\*。

市民団体を代表して東京都生活協同組合連合会の海老沢恵子さんが挨拶しました。

「展示館は子どもたちと一緒に学べる場だし、ここは東京都立ですから私たちのものだ、という気持ちもありません。特に私たちは、たくさん

最後に岡本太郎記念館の館長岡本敏子さんからお話をい



の団体と協力して第五福竜丸のエンジンを和歌山から運んで展示しようというとりくみをいたしました。その後、『第五福竜丸から平和を発信する連絡会』をつくり東京地婦連が記念植樹した大島八重桜の開花にあわせて、その木を囲んで「お花見平和のつどい」を開いてきました。今年四月三日、岡本太郎さんの原画展のオープニングの日にも当たりますので、たくさんの方がおこしくございますようご案内いたします」と述べました。



ただきました。「去年九月に行方がわからなかった作品『明日の神話』が見つかりました。三五年前に岡本太郎がメキシコで描いていた原爆の絵、真ん中に骸骨が増殖して右端に第五福竜丸がマグロを引っ張って描かれているの。三メートルの壁画です。太陽の塔を作っている真つ最中に日本とメキシコを行き来して描いていた。キノコ雲が、よきによきと凶悪な感じでわかあがつている。その絵の最初の原画をここで展示していただきます」と述べて大きな拍手に包まれました。

## ビキニ水爆実験被災50周年記念出版 初めての図録=写真でたどる第五福竜丸

編集・発行=財団法人第五福竜丸平和協会

発行=平和のアトリエ 内容=刊行にあたって、都挨拶、グラビア・第五福竜丸、水爆実験との遭遇、乗組員のその後と久保山さんの死、「原子マグロ」と国民生活、ビキニの海へ—俊鷗丸の海洋放射能調査、漁船第五福竜丸、原水爆反対の声おこる、乗組員へのお見舞いの手紙、漁業補償と事件の「決着」、マーシャル諸島の核被害、第五福竜丸の保存と展示館の建設ほか。解説=水爆実験と日本の科学者、第五福竜丸の現在—日本経済への影響、マーシャル諸島の核被害者ほか  
展示館特別価格2000円(送料共) A4版、104ページ

I N F O R M A T I O N

マーシャルからメアリー・シルクさん来館

ビキニ水爆被災50年記念研究集会(平和学会関東ブロック、ピース・デポなど主催、第五福竜丸平和協会協賛)の報告者として来日したマーシャル諸島短期大学の核問題研究所長メアリー・シルクさんが、20日午前展示館を訪れました。

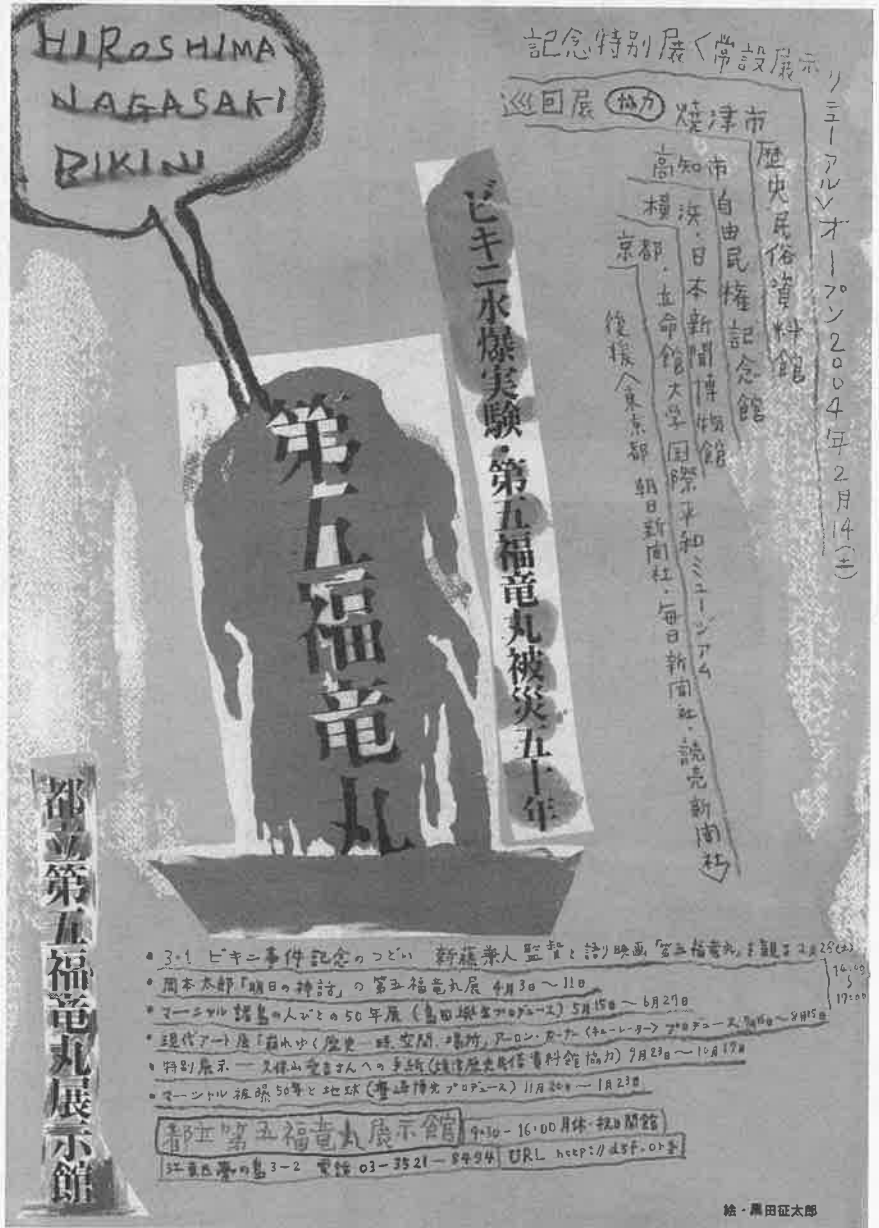
核問題研究所は、1997年に設立され、核実験被害のデータ収集や被害者の聞き取り、記録をすすめています。

メアリーさんは、川崎会長の案内で第五福竜丸の被災、太平洋の核汚染、マーシャル諸島の核被害、世界の核実験被害などリニューアルした展示を熱心に見学、協会役員と懇談しました。メアリーさんは、「被害から50年目に第五福竜丸のそばにいることに感激し、とても嬉しく思います。



第五福竜丸と同じ核実験被害を受けたマーシャルの人間として、核問題研究所の仕事をとおして、被害の事実や被害者の健康問題なども調べていきたいと思います。また、直接被曝を体験していない学生にこの問題に関心をお願いしたいです。また、直接被曝を体験していない学生にこの問題に関心をお願いしたいです。また、直接被曝を体験していない学生にこの問題に関心をお願いしたいです。

核被害記念館をつくっていますが、



50周年記念事業のポスター完成。イラスト・デザインは黒田征太郎さんから寄せられました。

そのなかでマーシャルの被害についての展示へのアドバイスや写真の提供をお願いしたいのです」と述べました。

これに対し平和協会として、第五福竜丸の被害と日本の事件の影響の広がりについての展示パネル20点と広

島・長崎の被爆写真パネル40点を記念館の完成にあわせて寄贈する準備をすすめていること、被害写真についても写真家の協力を得るようすすめた、と答えました。